言語エキスポ2015シンポジウム
「21世紀の言語教育とメディア活用」

メディアを使う？使われる？
ＩＣＴとの賢い共存

淡路　佳昌
（帝京科学大学総合教育センター）
yoshi@awajis.net
http://www.awajis.net/

今日の流れとポイント

- これまでの革新の数々を振り返る
- 賢い導入や共存を阻むもの
  - 作る側・売る側の意図
  - 導入・紹介する側の意図
  - 使う（使わされる）側の立場
- ICTを賢く使いこなす教師として

本日の、
私の立ち位置と役割

悪役、Devil’s advocate、天邪鬼

他意はなく、
役割を忠実に演じているだけ

さまざまな革新の波

- 視聴覚的手法（音声、画像、動画）
- ティーチングマシン
- Language Laboratory
- CAI、CALL
- インターネット

成功？失敗？

- 賢く活用してきたか？
- 道具に振り回されていないか？
- 過大な期待？一過性のブーム？

機械はすべてを解決するものではないことはもちろんだが、日本の外国語教育改善の重要な鍵はL. L.の普及にあると言える。

（黒田巍「L. L.の歩み」『英語教育』1962年6月号）

よくある悪循環

- 新しいものに安易に飛びつき
- 旧来のものを棄却し
- 失敗し、失望し
- 反動で本来の価値も認めなくなる。

「これからは〜の時代」？

- 見かけ上のイノベーションはさほど重要ではないのでは？
- 学びを支える道具の変化が、学びの仕組み自体を変える？
- 学びという営み自体が急変？

（LLの利点や長所に触れた後で）しかし、一方では、LLへの不信感も根強い。そのことは、たんに指導技術（How）の問題ではなく、英語教育の目的論（Why）にかかわる問題である。

（浅野博「視聴覚教育・教育工学と指導法」『英語教育』1976年7月号）

これからも続くであろう各種視聴覚機械の発明進歩に我我が引きずり廻されるのでなく、それら機械力の持つ可能性と限度を知って、我々の真の要求と実情がそれら新しい機械、エレクトロニクスの語学教育に果す役割をcontrolしてゆかねばならないと思う。（金田正也「Language Laboratory Systemの導入」『英語教育』1960年7月号）

技術の高度化、学びの退化

- スマホの普及と、ICTスキルの低下
- かな漢字変換の普及と、書字能力
- 教室の教師に何が起こるか？

子どもの学びとテクノロジー

“They haven’t used it. We limit how much technology our kids use at home.”

子どもの学びとテクノロジー

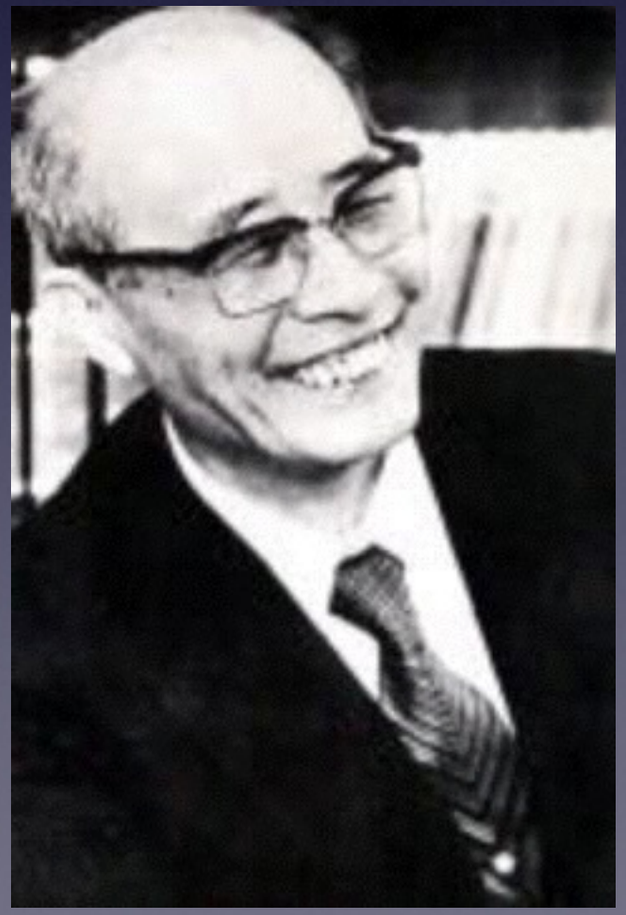
“That’s because we have seen the dangers of technology firsthand. I’ve seen it in myself, I don’t want to see that happen to my kids.”

(Chris Anderson, 3D Robotics CEO)

なぜ賢く使いこなせないのか？

- 教師が教師でなければできない仕事を機械に押しつけ、
- 機械は手に負えるはずのないことを安請け合いする

“Aids are but aids. They cannot replace teachers." Audio-Visual Aidsに対する私の信念と、根本的な立場は以上の表現につきる。（中略）



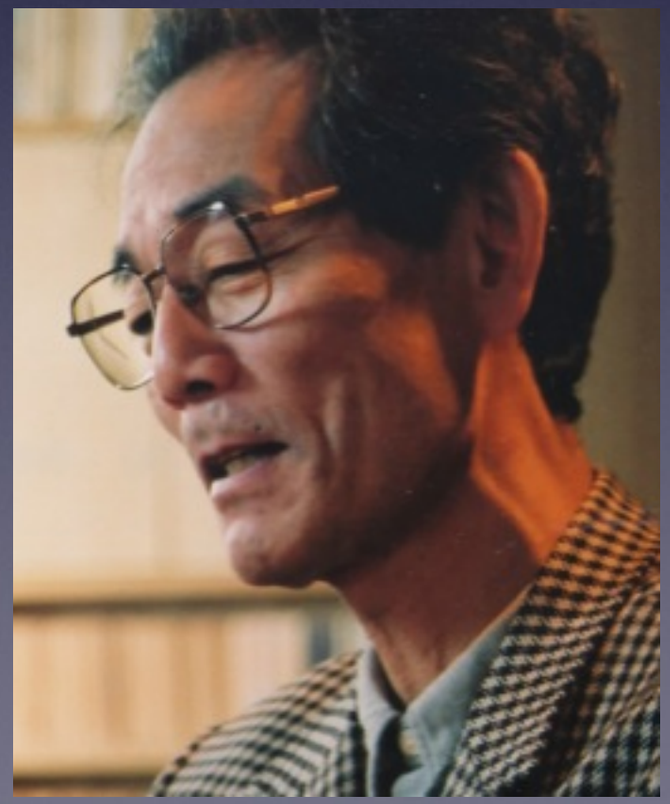
それでは、どのような効果的な利用法があるのであろうか? それは教師の心構え如何にあると云えよう。更にいえば。はじめに云ったように、Aidsの意味を真に理解することである。（小川芳男「Audio-Visual Aids」『英語教育』1959年12月号）

使うか、使わないか

- ここぞという場面で利用する
  - プロジェクターか黒板か
  - オンラインの掲示板か、模造紙か
  - クリッカーか、挙手か

いつのころからか、黒板とチョークだけで授業をするのは時代おくれであると考える風潮が出てきた。少なくとも、黒板とチョークだけで研究授業をしたという例はあまり聞かない。

（若林俊輔「1973年英語教育の回顧と展望」『英語教育』）



そして、視聴覚教育の問題もあまり取り上げられなくなってしまったのは皮肉である。

私には、視聴覚機器を教室の中に持ち込むことばかり考えたところに誤りがあったように思える。

（若林俊輔「1973年英語教育の回顧と展望」『英語教育』）

清川英男「教育機器をこれから導入する教師へ」

『英語教育』1974年8月号

(1)学習内容、学習目標を検討した後にメディアを使用すること。そうでなければメディアは害を与えることもある。

(2)LLを入れる前に１台のテープレコーダーを活用し、録音教材や評価について、ある程度経験を豊かにすること。

(3)視覚教材の限界を知ろう。

(4)OHPを使いすぎないようにしよう。

賢いメディア利用に必要なこと

- ますます求められる教師の力
  - 授業力、観察力、動機付けの技
- 使ってみる勇気、使わない勇気
  - 新旧の指導法に関する知識とスキル